

令和7年度「実施計画 兼 まちづくり達成状況報告書」（事務事業点検シート）

① 総合計画上の位置付けと事務事業の背景・目的と目標

後期基本計画	施策の大綱	VII行財政運営の効率化	事務事業の背景・目的	事務事業の目標
	施策の目標	3 市民満足度の高い行財政運営を進める		
	施策	1 連携事業		
	施策内容	AI まちづくりの推進		
	その他、根拠法令及び分野別計画等	じょうそう未来創生プラン後期基本計画（R5～9年度）		
事務事業名		AI まちづくり推進事業		

② アクティビティ（活動・事業）とアウトプット（結果）

③ インプット（投入）

アクティビティ（活動・事業）		アウトプット（結果）			R7 予算額	R7 決算額
活動名・事業名 （対象年）	R7 活動・事業内容	指標（単位）	R7 目標値	R8 目標値		
			R7 実績値	R9 目標値		
AI まちづくり関連会議の開催 （R7・8・9）	コンソーシアムの運営会議や㈱本田技術研究所との会議を適宜開催します。また、AI×農業プロジェクトの本格稼働を目指します。	会議回数（回）	12 42	12 12	10,020 千円	9,945 千円
中1オリエンテーションキャンプでのAIワークショップの開催 （R7・8・9）	市内中学校1年生全員を対象に、AI等の先端技術に興味・関心を喚起するためのワークショップを開催します。	実施中学校（校）	4 4	4 4	0 千円	0 千円
ロボットプログラミング講座の開催 （R7・8・9）	市内小中学生を対象に、AIやプログラミングに触れる場を提供するために、ロボットプログラミング講座を開催します	実施回数（回）	8 8	12 12	15,100 千円	14,913 千円
上記以外の「AI×教育」プログラムの開催 （R7・8・9）	市内小中学生を対象に、AI等の先端技術に興味・関心を喚起するため、AI関連企業の会社見学を開催します。	参加者数（人）	30 16	30 30	千円	千円
あすなろの里でのAIモビリティ体験乗車 （R7・8・9）	市内外の来園者に対し、AIまちづくりの取組PRやAIなどの先端技術に触れる場を提供することを目的に、AIモビリティ乗車体験を開催します。	参加者数（人）	500 80	500 500	307 千円	173 千円
あすなろの里AIモビリティ走路環境整備 （R7・8・9）	AIモビリティ体験乗車や㈱本田技術研究所との協定に基づく技術実証実験を推進するための環境整備工事を行います。	—			1,000 千円	879 千円
市内イベントでのAIまちづくりPR活動 （R7・8・9）	市内企業イベントにおいて、AIまちづくりの取組を周知するためのブース出展を行います。	ブース出展回数（回）	5 4	5 5	0 千円	0 千円
情報発信 （R7・8・9）	SNSや広報誌において、AIまちづくり関連情報を発信します。	発信回数（回）	24 46	24 24	0 千円	0 千円
AIを用いた地域課題解決プロジェクト支援 （R7・8・9）	民間企業等が主体となって取組むAIを用いた地域課題解決プロジェクト活動を支援します。	プロジェクト件数（件）	1 1	2 3	3,189 千円	2,547 千円
					千円	千円

④ アウトカム（成果）

指標名	目標値	R7 実績値
本事業に関連する新規雇用者数	累計 32 人	26
コンソーシアムプロジェクト数	累計 4 件	2

⑤ 点検・改善

業務の振り返り	改善の余地			
・コンソーシアム活動では、新たに「AI×農業」プロジェクトを立上げ、Hondaとともに、ネギのトライアル検証を開始しました。 ・「AI×教育」プロジェクトの2年目の取組として、市立中学1年生全員にAIロボットプログラミング体験会を新たに開始し、また、「もっと学びたい」という声に応えるため、新プログラムを追加しました。 ・実証実験の分野では、関係機関との調整に協力し、石下市街地での公道実験やテストコース拡張工事が開始されました。 ・「AI まちづくり」の認知度向上に向けて、コンソーシアム活動と情報発信を充実させる必要があります。	☒ コスト	☒ 活動	☐ 成果	☐ その他
	今後の方向性			
	令和8年度以降のコンソーシアム活動においては、引き続き既存のAI×教育プロジェクト及びAI×農業プロジェクトを推進するとともに、第3のプロジェクトの立ち上げに向けて取り組みます。また、これらのプロジェクトを推進するために、市内事業者等の参画を得ることを目的としたイベントを開催し、プロジェクトの本格稼働を目指します。 また、「AI まちづくり」の認知度向上に向けて、情報発信の強化やイベントの開催、及びHPの充実を図ります。			